

# 小学校国語科における「書く」ために読む学習指導の 実践的研究

—— 小学校第1学年「自動車図鑑づくり」と「じどう車くらべ」の複合単元学習を通して ——

宮内 翔也\*

(2023年10月23日受理)

Practical research of applied reading comprehension to writing abilities in elementary school Japanese language classes: Through the use of units “Jidoshazukan-zukuri” and “jidousha-kurabe” for first grade of elementary school

Shoya MIYAUCHI

キーワード：説明的文章，単元構成，「書くこと」「読むこと」の関連指導，複合単元

本研究では、小学校国語科において、「書くこと」と説明的文章を「読むこと」の複合単元を構想し実践することを通して、複合単元学習の効果や指導のあり方について考察することを目的とした。小学校第1学年において、自動車について説明する文章を書く学習の中に説明的文章「じどう車くらべ」を読む学習を組み込んだ。そして、説明的文章から「説明の順序」について学びそれを書くことに活用するといった学習指導を実践した。単元学習を通じた児童の変容を見取り、学習効果について検証をした。その結果、児童が書くことを目的として説明的文章を読むことで、「説明の順序」という文章の書かれ方について理解し、それを書く学習にも活用させることができるようになることが明らかとなった。

## はじめに

説明的文章を読むことの学習では、書かれている内容について正確に読み取るとともに、説明の順序や段落相互の関係、文章全体の構成など、文章の書かれ方についても理解することが重要である。しかしながら現行の指導では、内容の読み取りに終始してしまう例があり、説明的文章指導の課題といえる。

---

\*茨城大学教育学部附属小学校

小学校学習指導要領解説国語編(2017)では、「様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている」と示されている。説明的文章は自然科学や社会科学に関するものが題材とされることが多いが、内容の理解が直接の目的ではなく、そこで用いられている「言葉」について学習すべきだといえる。また、説明的文章を読むことにおける指導事項(第1学年及び第2学年)として、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」が示されている。小学校低学年においては、「順序」に着目して読む力を身に付けることが必要とされているといえる。

阿部(2021)は、説明的文章の「専らその内容を理解することを重視し、書かれ方(論理や表現)を読むことをほとんどさせない」指導を「内容主義」とし、「文章の書かれ方(論理や表現)にこだわることがないために、文章を深く読みとる力はほとんどつかない」と指摘している。文章を読みとる力を付けていくためには、小学校低学年においても、書かれ方(形式面)を意識した学習が必要であろう。一方で、書かれ方だけに偏った指導でも「子どもたちが文章を読んでいくなかで発見をしたり疑問をもったりといった要素が軽視される」とも指摘している。書かれ方の指導に偏るのではなく、内容・形式両面の理解を実現する指導が必要であろう。

小田(1986)は、「読みの意識の中に書き手意識を働かせることによって、表現の内容・形式両面の理解が可能になる」とし、表現活動のコンテキストの中で読む学習を行うことの有効性について提唱している。また、「表現活動本位の学習展開のコンテキスト(学習意識の流れ)の中に読みの活動を組み込み、いかに書き表すべきかという問題意識のもとに文章構成読みをさせるほうが、正確に読みとるために文章構成を把握しようという立場から読ませるよりも、構成理解意識を高めやすい」と述べている。説明的文章を学習するにあたっては、「書くこと」と関連させることで、文章の書かれ方について理解を深めることができると考えられる。

## 目的及び方法

本研究では、小学校国語科において、「書くこと」と説明的文章を「読むこと」の複合単元を構想し実践することを通して、複合単元学習の効果や指導のあり方について考察することを目的とする。

茨城大学教育学部附属小学校の第1学年の児童を対象に、教科書(光村・一年下)に掲載されている説明的文章「じどう車くらべ」(読むこと)と「じどう車ずかんをつくらう」(書くこと)の単元学習をもとに授業を行う。この二つの教材は連続して位置付けられており、「読むこと」と「書くこと」を関連させた学習を行うことを想定しているといえる。教科書においては「読む」から「書く」に発展させる位置付けとなっているが、先述した小田の方法をもとに、「書くこと」の学習の中に「読むこと」の学習を組み込み、「書く」→「読む」→「書く」という単元構成とする。

書くことと読むことを関連させた学習の中で、児童が文章の書かれ方について理解し、それを書くことに活用していく過程を見取ることで、本単元の学習効果について検証する。

## 「読むこと」と「書くこと」の複合単元の構想について

### 1. 読むことの単元 説明的文章「じどう車くらべ」の実際

教科書における「じどう車くらべ」の本文は次のとおりである。段落番号は筆者が付けた。

表1. 「じどう車くらべ」本文と文の役割

本文	文の役割	ページ
じどう車くらべ	(題名)	1
①いろいろなじどう車が、どうろをはしっています。	話題提起	
②それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。	問い	
③そのために、どんなつくりになっていますか。	問い	2
④バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶしごとをしています。	しごと	
⑤そのために、ぎせきのところが、ひろくつくってあります。	つくり①	
⑥そとのけしきがよく見えるように、大きなまどがたくさんあります。	つくり②	3
⑦トラックは、にもつをはこぶしごとをしています。	しごと	
⑧そのために、うんでんせきのほかは、ひろいにだいになっています。	つくり①	
⑨おもいにもつをのせるトラックには、タイヤがたくさんついています。	つくり②	4
⑩クレーン車は、おもいものをつり上げるしごとをしています。	しごと	
⑪そのために、じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。	つくり①	
⑫車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついています。	つくり②	

教科書の紙面構成として、4ページにわたってそれぞれ文章と挿絵が掲載されている。1ページ目には道路上をさまざまな自動車が行き交う様子の挿絵、2ページ目には乗用車とバスの挿絵、3ページ目にはトラックの挿絵、4ページ目にはクレーン車の挿絵が配置されている。

1ページ目は、題名とともに3文で構成されている。1文目は「いろいろなじどう車が、どうろをはしっています」という話題提起となっている。2文目は「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか」と、自動車の「しごと」に関する「問い」の文となっている。3文目は「そのために、どんなつくりになっていますか」と、自動車の「つくり」に関する「問い」の文となっている。

2、3、4ページでは、この「問い」の文に答えるかたちで、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」について3文で説明する構成となっている。1文目では「しごと」について書かれている。2文目では「そのために」という接続詞とともに「つくり」について書かれており、1文目の「しごと」をするための「つくり」という関係になっている。3文目はさらに補足するかたちで「つくり」について書かれている。「バスやじょうよう車」、「トラック」、「クレーン車」いずれも、このように「しごと」→「つくり①」→「つくり②」という順序で説明されている。

さらに、本文の後のページは「学習の手引き」のページとなっており、「せつめいする文しょうをよもう」という学習の目標が示されている。さらに、学習活動(設問)が次のように示されている。

- ▶どんなじどう車ができましたか。
- ▶じどう車のしごととつくりを、ノートにかきましょう。
- ▶はしご車は、どんなしごとをしていますか。そのために、どんなつくりになっていますか。

一つ目は、本文の中でどのような自動車が出てきたかを問う設問となっている。二つ目は、本文の中にもある「しごと」と「つくり」の問いの文に対応するかたちの設問といえるだろう。三つ目は、本文にはない「はしご車」についての設問となっており、設問の下部には「はしご車」の挿絵が配置されている。この挿絵、または図鑑等を活用することを通して、「はしご車」の「しごと」と「つくり」について書くことを想定した設問となっている。そして、「たいせつ」として「せつめいのじゅんにきをつけてよみましょう。」と示されている。

## 2. 書くことの単元 「じどう車ずかんをつくろう」の実際

冒頭で『じどう車くらべ』でがくしゅうしたことをおもいだして、じどう車ずかんをつくりましょう。」とあり、次の3つの学習活動が示されている。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 しごととつくりをたしかめましょう。</li> <li>2 しごととつくりのじゅんでかきましょ。</li> <li>3 みんなのカードをあつめて、ずかんにしましょ。</li> </ol> |
|---|

活動1の部分には、「きゅうきゅう車」の「しごと」と「つくり」について情報を集め表にしたものが例として示されている。さらに、自動車に関する図鑑の例と、図鑑を使って調べる児童のイラストが掲載されている。活動2の部分には、「きゅうきゅう車」について「しごと」と「つくり」の順で文章に書き表し、イラストを描いた、いわゆる「じどう車ずかん」のもとになるカードの例が示されている。そして、活動3の部分として、そのカードをまとめ、図鑑のかたちにしたものを児童が読み合うイラストがある。最後に、「たいせつ」として「せつめいのじゅんにきをつけてかくと、わかりやすくなります。」と示されている。

## 3. 複合単元の構想

以上のように、教科書では「読むこと」の学習を「書くこと」の学習に発展させる構成となっている。どちらの単元でも学習の手引きの「たいせつ」において「せつめいのじゅん」という言葉がある。これら二つの単元においては「説明の順序」という視点で読んだり書いたりする力を身に付けることに重点が置かれているといえる。説明する文章を書く際には、分かりやすく書くことが必要であり、説明する順序に気を付けて書くべきである。このことは、小学校第1学年の児童でも理解できるだろう。しかし、「説明の順序に気を付けて読む」というのは何のためなのか児童は理解しにくいと考えられる。これは、後の書く学習につながるものだと指導者は理解できるが、「読むこと」の学習から始めた児童にとっては、その意義が不明確な状態での学習となることが想定できる。この問題を克服するためには、「書くこと」の学習の中に「読むこと」の学習を組み込み、どう書き表せばよいかという問題意識をもとにして説明的文章を読む学習展開にした方が、児童も「説明の順序に気を付けて読む」ことの意義を理解した上で「読むこと」の学習ができるだろう。そこで、「書くこと」と「読むこと」を一体化させた学習として、次のような複合単元を構想した。

### (1) 単元名

じどう車ずかんをつくろう

(2)単元の目標

- 「読むこと」において、説明的文章「じどう車くらべ」の説明の順序（文章構成）について理解することができる。
- 「書くこと」において、「読むこと」で理解した説明の順序（文章構成）を生かして、自動車を説明する文章を書くことができる。

(3)単元計画

本単元は、単元学習の導入として「書くこと」の場면을第0次とし、「読むこと」の学習を第1次、「読むこと」と「書くこと」の接続を図る学習を第2次、「書くこと」の学習を第3次とした複合単元の構成とする。

表2.「書く」中に「読む」を組み込んだ単元計画

次	時	学習活動	
0	1	自動車クイズをする。	書くこと (単元への導入)
	2	好きな自動車について調べ、説明する文章を書く。	
1	3	「じどう車くらべ」を読む。 ・それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」について把握する。 ・文章構成について理解する。	読むこと
	4		
	5		
2	6	はしご車の「しごと」と「つくり」について調べ、説明する文章を書く。	読むことと 書くことの接続
	7		
3	8	好きな自動車について調べ、説明する文章を書く。	書くこと
	9		
	10	自動車図鑑を完成させ、友達と読み合う。	

第0次では最初に、説明文「じどう車くらべ」の挿絵を用いて自動車クイズを行う。クイズを起点にさまざまな自動車を話題に取り上げることで、児童の「自動車について調べてみたい」「自動車について書いてみたい」という意欲を引き出すことをねらいとする。その後、自動車の図鑑を活用して、自動車についてわかったことを書いていく。この段階での児童は、図鑑を読んで目に付いた情報を羅列して書いていくことが予想される。そこで、教科書にある説明文「じどう車くらべ」を手本として提示し、どのように書くとわかりやすく自動車が説明できるか学んでいくように促す。

第1次では説明文「じどう車くらべ」を読んでいく。まずは教科書の設問にもあるように「どんなじどう車が出てきたか」確認していく。そして、本文中の二つの問い「どんなしごとをしていますか」「どんなつくりになっていますか」に対する答えを見つけていくかたちでそれぞれの自動車について読んでいく。その際、自動車図鑑づくりのために説明の仕方について学んでいくことを意識し、どのような順序で書かれているかに着目しながら読んでいくようにする。

第2次では、「じどう車くらべ」で学んだ説明の順序を生かして、はしご車の「しごと」と「つくり」について書いていく。図鑑を用いて情報を集め、「じどう車」くらべの説明の順序と同じように、「しごと」「つくり①（しごとに関係するもの）」「つくり②（さらに補足するもの）」という順で文章に書き表すことができるようになることを目指す。しかし、小学校第1学年の児童が調べたことをいきなり文章にすることは難しいと思われるため、情報を視覚的に整理することができるよう、右のような図を活用する。「しごと」「つくり①」「つくり②」それぞれにふさわしい情報について、図に言葉をあてはめながら考え、文章にしていく。学級全体でこの活動を行うことによって、説明の順序に気を付けて書くことの定着を図る。

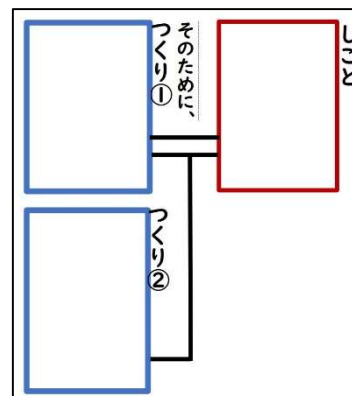


図1. 文章構造図

第3次では、説明の順序に気を付けて書くことができるようになった状態を想定し、児童が個人で好きな自動車について調べ、その自動車について説明する文章を書く活動を設定する。ここでも、「しごと」「つくり①」「つくり②」の順序で書くことを促す。最後に、書いた文章（じどう車説明カード）を一つにまとめ、図鑑のかたちにして児童同士で読み合い、単元を終了する。

## 授業の実際と考察

### 1. 第0次 単元への導入場面について

第0次では単元学習の導入として、様々な自動車について調べ、説明する文章を書いてみる活動を行った。第1時では、クレーン車のイラストを提示し、「これは何でしょう」と問うた。すると児童はクレーン車であるとすぐに答え、その役割や構造などについて話していった。次に教師から「他にはどんな自動車について知っているかな」と問うと、児童はバスや救急車、清掃車など様々な自動車を挙げた。さらに児童から「図鑑を使っていろいろな自動車について調べてみたい」という発言が出たため、教室にある図鑑を使って様々な自動車について調べ、学級全体で共有する活動を行った。第2時では、教科書の「じどう車ずかんをつくろう」のページに示されている救急車の説明カードを提示した。それを見た児童は「書いてみたい」という思いをもったため、図鑑を使いながら自動車の説明カードを書く活動を行った。児童はそれぞれ興味のある自動車について調べ、図鑑の絵を見たり文を読んだりしながらカードを書いていった。そして、書いた自動車説明カードをまとめて自動車図鑑にすることをゴールに、これから単元学習を進めていくことを確認した。

書く活動への導入として、知っている自動車について共有したり図鑑を使って調べたりする活動を行った上で説明カードの例を提示することで、児童から「書いてみたい」という意欲を引き出すことができた。図2は、児童が書いた自動車説明カードである。「雪道車」について次のように書かれている。

せつどうしやは、まえあしにスキーにつかうやがつがついています。うしろには、ちっちゃいたいあ（タイヤ）がついています。それでゆきのうえをはしります。かっこいいです。

雪道車の構造や役割、そしてそれに対する感想という内容となっており、文章に順序性はないと考えられる。他の児童も同様に、この段階で書いた自動車説明カードの文章には順序性がなく、図鑑を読んで目に付いた情報や思ったことなどを羅列して書いていると考えられる。



図2. 児童の自動車説明カード



図3. 図鑑を使いながら自動車カードを書く様子

## 2. 第1次 「読むこと」の学習場面について

自動車説明カードを書いた児童に対して教師から、自動車図鑑をつくるためには分かりやすい文章にすることが必要であることを伝え、説明的文章「じどう車くらべ」を読んで説明の仕方を学んでいくように学習の見通しをもたせた。まずは音読を通して内容の大体を捉えていった。次に教師から「本文の中に問いの文が二つあります。どれでしょう」と問うた。児童は「どんなしごとをしていますか。」と「どんなつくりになっていますか。」という二つの問いの文を見つけることができた。本文中で説明されている「バスやじょうよう車」、「トラック」、「クレーン車」はそれぞれどんな「しごと」と「つくり」なのか考えながら読んでいくようにした。それぞれの自動車ごとに、「しごと」についての文には赤線、「つくり」についての文には青線を引く活動を行った。近くの児童同士で確認し合いながらそれらの文を見つけることができた。また、板書でそれらの文について確認することで、児童は、「しごと」については1文、「つくり」については2文で書かれていることに気付いた。

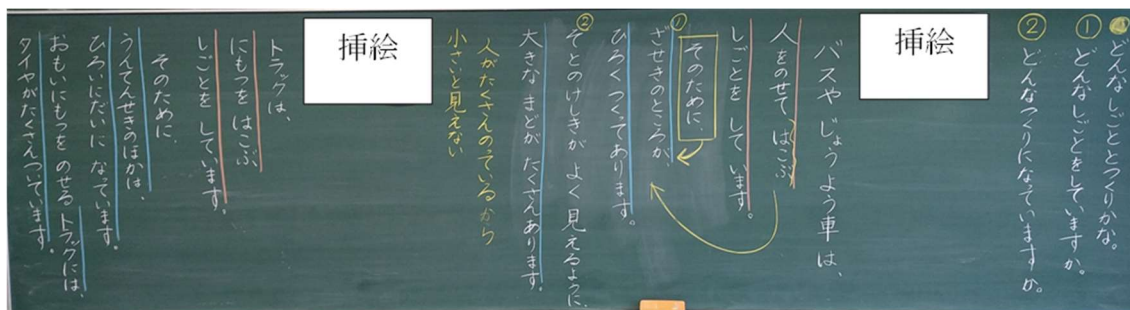


図4. 「しごと」と「つくり」について読んでいく場面での板書

自動車図鑑をつくることを単元のゴールとして設定した。そうすることで、「より分かりやすい文章を書くために『じどう車くらべ』から説明の仕方を学ぶ」と、説明的文章を読む意義を教師と児

童で共有した上で学習を進めることができた。また、「どんなしごとをしているか」と「どんなつくりになっているか」ということに焦点を当てて文章を読んでいった。そうすることで児童は、それらの内容とともに「しごと」について1文、「つくり」について2文という順序で説明されていることに気付くことができた。「書くこと」から「読むこと」へ学習を進めることで、文章の書かれ方にも着目しながら読むことができるようになることがわかった。

### 3. 第2次 「読むこと」と「書くこと」の接続場面について

はしご車の「しごと」と「つくり」について、図鑑を使って情報を集めて書く活動を行った。「しごと」については、「高いところの人を助ける」「火を消す」の二つが挙げられたため、「高いところの人を助けたり火を消したりする」とまとめた。「つくり」については、操作席、バスケット、はしご、アウトリガー、放水銃が挙げられた。それぞれがどういうものか図鑑に書かれた内容を確認した。そして、「しごと」に関係する一番大事な「つくり」は何か問うた。すると児童は次のように話した。

- C 1: はしご。はしごを使って人を助けるから。  
 C 2: バスケット。バスケットも人を助けるものだから。  
 C 3: 放水銃。火を消すために必要だから。

児童が選んだ「つくり」にばらつきがある状態で授業が終了した。そのため次時に再度、はしご車の「しごと」と「つくり」にふさわしいことは何か話し合った。

- T: はしご車はどんな仕事をする車でしたか。  
 C 4: 人を助ける仕事。  
 T: 道で倒れてしまった人を助けるのかな。  
 C 5: ちがうよ。ビルとか、屋根とか高いところにいる人を助けるんだよ。  
 T: 人を助ける仕事は救急車もしているけど、はしご車は「高いところの」というのが大事なんだね。そうすると一番ふさわしいつくりは何だろう。  
 C 6: はしごだと思う。はしごがないと高いところの人を助けられないから。

「つくり①」は「はしご」と、学級全体で統一した。「つくり②」にふさわしいものは個人で選ぶようにした。そして、「しごと」、「つくり①」、「つくり②」という説明の順序を確認した上で、はしご車の説明カードを書いていくようにした。1文目、2文目までは全員同じ文章にした。3文目の「つくり②」については、それぞれ選んでいる事柄が違うため、個人で考えて書くように促した。

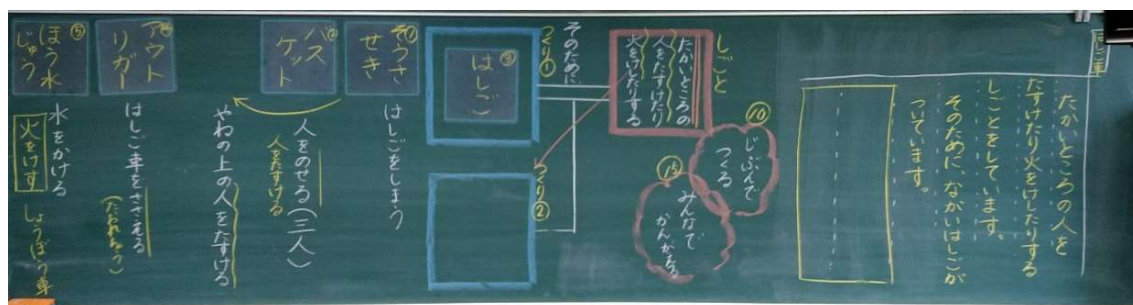


図5. はしご車の「しごと」と「つくり」について考えて書く場面での板書



はしご車の説明カードを書くためには、図鑑から集めた情報を整理し、「しごと」や「つくり」にそれぞれどのような事柄を入れるか吟味する必要がある。特に「つくり」については、図鑑に様々な情報が書かれているため、その中で「しごと」に対して一番ふさわしい「つくり」は何か考えて選ぶ必要がある。授業では、文章構造図を板書し、ミニ黒板シートに様々な「つくり」を書いて並べることで、どの「つくり」がふさわしいのか当てはめながら考えることができた。しかし授業の中で、「つくり」に入れる事柄をなかなか決めることができない児童が複数いた。それは、「しごと」に「人を助けること」と「火を消すこと」の二つの事柄が含まれていたからであると考えられる。説明的文章「じどう車くらべ」に出てくる自動車の「しごと」はいずれも一つで簡潔なものであった。しかし、はしご車は、図鑑の中に「高いところの人を助ける」と「火を消す」という二つの「しごと」について書かれていた。その二つを「高いところの人を助けたり火を消したりする」と一つにまとめてしまったことで、どの「つくり」がふさわしいか児童は判断に迷ったと考えられる。はしご車について書く場合は、その「しごと」は「高いところの人を助ける」と、一つの事柄に限定した方が「つくり」にふさわしい事柄も考えやすくなるだろう。または、書く対象をはしご車ではなく、「しごと」が一つに限定できる他の自動車にすることも検討すべきであろう。

以下は、児童が書いたはしご車の説明文である。

A児

はしご車は、たかいところにいる人をたすけたり火をけしたりするしごとをしています。そのために、ながいはしごがついています。人をのせるバスケットがついています。

B児

はしご車は、たかいところにいる人をたすけたり火をけしたりするしごとをしています。そのために、ながいはしごがついています。火をけせるようにほう水じゅうがついています。

「つくり②」については、児童がそれぞれ個人で選んで書くようにしたため、A児はバスケット、B児は放水銃について書いた。どちらの児童も「しごと」、「つくり①」、「つくり②」という説明の順序で書くことができた。文章構造図にそれぞれの事柄を当てはめながら考えたことで、全ての児童が「しごと」「つくり①」「つくり②」という説明の順序を意識して書くことができた。

#### 4. 第3次 「書くこと」の学習場面について

図鑑を使いながら、好きな自動車の説明カードの清書を書く活動を行った。「じどう車くらべ」の説明の順序を改めて確認し、「しごと」「つくり①」「つくり②」という順序で書くことを意識付けた。また、書く事柄の順序を板書で示したり、机間指導の中で説明の順序を意識しながら書いている児童を価値付けたりしながら活動を進めていった。最後に、清書をまとめ、自動車図鑑のかたちにして単元学習を終了した。

次の文章は、児童が書いた自動車の説明文である。

C児「パワーショベル」

パワーショベルは、コンクリートやつちをほるしごとをしています。そのために、バケットがあります。そしてバケットやアームをささえるブームがあります。

この児童は、「しごと」「つくり①」「つくり②」の説明の順序で書いており、これまでの学習を踏まえて書く事柄の順序を意識しながら書くことができているといえる。

一方で、次のような文章もみられた。

D児「クレープ車」

これはクレープをつくってくれるトラックです。クレープはおいしいです。まいにちたくさんのおきゃくさんがきます。うらは、まんなかがあいていてクレープをわたすところです。

この児童は、単元導入場面のとくと同様に、情報を羅列した文章を書いている。そのため、書く事柄を吟味したり説明する順序を意識したりせず書いているといえる。児童が自力で書く場面でも、文章構造図を再度活用するなどして、説明の順序を意識して書くことができるような手立てを用意する必要があった。

## おわりに

本研究では、小学校国語科において、「書くこと」と説明的文章を「読むこと」の複合単元を構想し実践することを通して、複合単元学習の効果や指導のあり方について考察することを目的とした。「書くこと」の学習の中に説明的文章を「読むこと」の学習を組み込むことで、「説明の順序」といった文章の書かれ方について理解することに有効であることがわかった。さらに、説明的文章から学んだ「説明の順序」を、書く学習に活用させることができることも明らかとなった。しかし、単元終末の「書くこと」の学習の段階で、説明の順序を意識せずに書いている児童もみられた。この原因としては、「読むこと」の学習において「説明の順序」についての理解が不十分であったことと、「説明の順序」を「書くこと」にも活用することができるという意識が不十分であったことが考えられる。このことから、説明的文章の書かれ方について理解を深める場面や、その書かれ方を「書くこと」にも活用できるようにする場面において、学習展開や教材等を改善していく必要があると考える。また、他教材・他学年での学習も構想し実践することで、「書くこと」と「読むこと」の複合単元の学習効果や指導法についてさらに明らかになっていくだろう。

## 引用文献

- 文部科学省. 2017. 『小学校学習指導要領解説国語編』, 12, 38, (東洋館出版社).
- 阿部昇・柴田義松・鶴田清司. 2021. 『あたらしい国語科指導法六訂版』, 63, (学文社).
- 小田迪夫. 1986. 『説明文教材の授業改革論』, 70-73, (明治図書).